

# 研究の目的と研究活動・成果

—— 人権・国際化の諸問題から見た現代社会における「人間観」——

研究班主任 硯 川 眞 旬

## 1. 研究の目的

現代は「国際化時代」と呼ばれている。人・物・経済等の国際的交流が日を迫うごとに活発化しているが、いっぽうで国際化とともに摩擦の問題が生じてくる。真の「国際化」とは何かが今日ほど問われる時代はない。また、国際化には人間理解が必要であるという認識のもとに、あるべき人権・教育・福祉教育が求められる。

この研究においては、主題にそくして、国際化と人権の諸問題をわれわれ一人ひとりの問題としてどのように受けとめるかということを課題とし、人間の本質（現代社会における人間観）をさぐることを目的とする。とくに、その核に人権が位置づいたものであることを全研究スタッフが共通認識にしてこの共同研究をすすめる。

具体的には、国際化とは何か、そして人権問題の分析を基礎的研究として踏まえ、①日本国内の異文化理解（内なる国際化）の問題の視点から、帰国男女青年教育、在日韓国・朝鮮人教育並びに在日外国人教育・先住民教育などの諸問題をとりあげた。さらに、②人間の相互理解（共生社会構築）の立場から、現代日本におけるさまざまな生活問題（同和問題、生活困窮問題、障害問題、高齢社会問題、保健医療問題、児童問題、就学前問題、学校教育問題、女性問題、環境問題等）を人権の視点からとりあげ、主題について探究した。

## 2. 研究のスタッフ構成と研究分担

〈主任〉

硯川 眞旬（佛教大学社会学部教授、同総合研究所兼任研究員）

## 〈スタッフ〉

澤田健次郎（佛教大学社会学部元教授）

児童福祉と人権の諸問題から見た「現代社会における人間観」

仲田 直（佛教大学教育学部教授）

人権・同和教育と国際化の諸問題から見た「現代社会における人間観」

村上尚三郎（佛教大学社会学部教授）

教育・福祉と人権の諸問題から見た「現代社会における人間観」

吉岡 剛（佛教大学教育学部教授，同教育学部長）

学校教育と国際化の諸問題から見た「現代社会における人間観」

和田 修二（佛教大学教育学部教授）

異文化理解教育と国際化の諸問題から見た「現代社会における人間観」

飯田 一道（龍谷大学短期大学部教授）

「人権教育の十年」及び国際福祉と人権の諸問題から見た「現代社会における人間観」

場知賀礼文（佛教大学社会学部教授）

近代性・現代の人生観と国際化の諸問題から見た「現代社会における人間観」

田中圭治郎（佛教大学教育学部教授）

先住民族教育と国際化の諸問題から見た「現代社会における人間観」

藤本 浄彦（佛教大学文学部教授）

仏教的人間観と国際化の諸問題から見た「現代社会における人間観」

硯川 眞旬（前掲）

保健・医療福祉と人権の諸問題から見た「現代社会における人間観」

西岡 正子（佛教大学教育学部助教授）

女性教育と国際化の諸問題から見た「現代社会における人間観」

山西 辰雄（身体障害者療護施設るりこう園次長，佛教大学非常勤講師）

障害福祉と人権の諸問題から見た「現代社会における人間観」

中島 智子（プール学院大学国際文化学部助教授）

在日韓国人・在日外国人教育・帰国男女青年教育と国際化の諸問題から見た「現代社会における人間観」

坂本 雅俊（京都 YMCA 国際福祉専門学校専任講師・介護福祉科主任）

高齢者福祉と人権の諸問題から見た「現代社会における人間観」

片岡 靖子（堀川病院医療相談室長・同老人介護支援センター所長）

生活保護の実態と人権の諸問題から見た「現代社会における人間観」

藤井 透（佛教大学総合研究所助教授）

女性労働と人権の諸問題から見た「現代社会における人間観」

古川 隆司（キリスト教社会福祉専門学校専任講師）

公的扶助制度と人権の諸問題から見た「現代社会における人間観」

金田 啓稔（佛教大学非常勤講師）

就学前教育と国際化の諸問題から見た「現代社会における人間観」

〈協力スタッフ〉

安藤 仁介（京都大学大学院法学研究科教授）

国際人権保障の現状と課題 ― 規約人権委員会の体験から ―

今野 敏彦（東海大学教育研究所教授）

現代社会における国際化の諸問題 ― 人権の視点から ―

小山 千蔭（弁護士）

国際人権規約関連判例と憲法

向台 博（広島県小学校社会科研究会元副会長）

小学校教育における人権教育

〈助手〉

森野泰一郎（佛教大学大学院元博士後期課程生）

山本 真理（佛教大学大学院元修士課程生）

### 3. 1996年度の研究活動

初年度は、人権と「内なる国際化」の課題についての共同研究を行ない、「現代社会における人間観」について探究した。とくに、各領域で、人権問題・国際化実態調査、聞き取り調査（各研究員の個別調査）など、単に文献研究だけでなく、幅広い調査研究活動を行なった。研究例会では、各スタッフが理論的傾向と実践的傾向の両面にわたって具体的に研究報告を行ない、共同研究テーマへのアプローチを行なった。とくに、理論的研究については、先行研究の分析を踏まえて行なった。なお、研究課題が極めて現在的なテーマであり、現状の分析が必須であるため、全スタッフが各地の実践を調査し、これを参考にすることとした。

研究の日程とテーマについては、次のとおりである。

- |       |         |  |
|-------|---------|--|
| 4月15日 | 硯川眞旬発表  | 共同研究テーマ「現代社会における人間観の探究<br>— 国際化と人権の諸問題を通して —」のとり<br>え方 |
| 4月22日 | 硯川眞旬発表  | 「現代社会における人間観の探究」の研究の方法<br>と方向                          |
| 5月13日 | 硯川眞旬発表  | 「国際化」の概念把握   |
|       | 吉岡 剛発表  | 現代における国際化の諸問題  |
| 5月27日 | 硯川眞旬発表  | 「人権」の概念把握  |
|       | 村上尚三郎発表 | 現代における人権の諸問題   |
| 6月10日 | 仲田 直発表  | 人権・同和教育と国際化の諸問題から見た「現代<br>社会における人間観」                   |
|       | 村上尚三郎発表 | 教育・福祉と人権の諸問題から見た「現代社会に<br>おける人間観」                      |
| 6月17日 | 坂本雅俊発表  | 人権問題実態調査の目的と調査方法                                       |
| 6月24日 | 田中圭治郎発表 | 先住民教育と国際化の諸問題から見た「現代社<br>会における人間観」                     |
|       | 飯田一道発表  | 「人権教育の十年」及び国際福祉と人権の諸問題<br>から見た「現代社会における人間観」            |
| 7月15日 | 和田修二発表  | 異文化理解教育と国際化の諸問題から見た「現代<br>社会における人間観」                   |
|       | 澤田健次郎発表 | 児童福祉と人権の諸問題から見た「現代社会にお<br>ける人間観」                       |
| 8月10日 | 安藤仁介講演  | 国際人権保障の現状と課題 — 規約人権委員会の<br>体験から —                      |
|       | 仲田 直発表  | 国際人権保障の現状と課題 — 人権教育の観点か<br>ら —                         |
|       | 村上尚三郎発表 | 国際人権保障の現状と課題 — 福祉教育の観点か<br>ら —                         |
|       | 中島智子発表  | 国際人権保障の現状と課題 — 国際化の観点から<br>—                           |
| 8月11日 | 吉岡 剛発表  | 学校教育と国際化の諸問題から見た「現代社会に<br>おける人間観」                      |

	古川隆司発表	公的扶助制度と人権の諸問題から見た「現代社会における人間観」
10月14日	西岡正子発表	女性教育と国際化の諸問題から見た「現代社会における人間観」
	藤井 透発表	女性労働と人権の諸問題から見た「現代社会における人間観」
10月28日	中島智子発表	在日韓国人・在日外国人教育・帰国男女青年と国際化の諸問題から見た「現代社会における人間観」
	山西辰雄発表	障害福祉と人権の諸問題から見た「現代社会における人間観」
11月11日	坂本雅俊発表	高齢者福祉と人権の諸問題から見た「現代社会における人間観」
	場知賀礼文発表	近代性・現代的人生観と国際化の諸問題から見た「現代社会における人間観」
11月25日	藤本浄彦発表	仏教的人間観と国際化の諸問題から見た「現代社会における人間観」
	硯川眞旬発表	保健・医療福祉と人権の諸問題から見た「現代社会における人間観」
12月16日	吉岡 剛発表	教育問題から見た「現代社会における人間観」
	田中圭治郎発表	教育から見た国際化の諸問題
1 月20日	村上尚三郎発表	社会福祉問題から見た「現代社会における人間観」
	坂本雅俊発表	社会福祉から見た人権の諸問題
2 月17日	坂本雅俊発表	人権問題実態調査の集計結果
	硯川眞旬発表	第1年度目の研究のまとめ

\* なお、3月31日に、アンケート調査報告書『現代社会における人間観の探究 ― 国際化と人権の諸問題を通して ―』を発行し、関係諸機関・団体・施設に配布した。

#### 4. 1997年度の研究活動

前年度の研究成果のうえに立って、人権や「内なる国際化」の課題につき明確化し、さらに、これを通じてさまざまな社会（生活）問題の考察を通して、「現代社会における人間観」について明らかにした。

なお、前年度実施したアンケート調査結果や、ヒヤリング調査結果、並びに2回にわたる本研究班主催シンポジウムにおける諸提言などをもとに研究討議した。また、各研究員の研究分担発表を題材として議論した。

研究の日程とテーマについては、次のとおりである。

4月21日	硯川眞旬発表	第2年度目の共同研究のポイント
	坂本雅俊発表	人権問題実態調査の分析
5月12日	片岡靖子発表	生活保護の実態と人権の諸問題から見た「現代社会における人間観」
	金田啓稔発表	就学前教育と国際化の諸問題から見た「現代社会における人間観」
	仲田 直発表	人権・同和教育と国際化の諸問題から見た「現代社会における人間観」
5月26日	澤田健次郎発表	児童福祉と人権の諸問題から見た「現代社会における人間観」
	中島智子発表	在日韓国人・在日外国人教育・帰国男女教育と国際化の諸問題から見た「現代社会における人間観」
6月9日	坂本雅俊発表	高齢者福祉と人権の諸問題から見た「現代社会における人間観」
	和田修二発表	異文化理解教育と国際化の諸問題から見た「現代社会における人間観」
6月23日	飯田一道発表	「人権教育の十年」及び国際福祉と人権の諸問題から見た「現代社会における人間観」
	田中圭治郎発表	先住民族と国際化の諸問題から見た「現代社会における人間観」
7月14日	片岡靖子発表	生活保護の実態と人権の諸問題から見た「現代社会における人間観」

	金田啓稔発表	就学前教育と国際化の諸問題から見た「現代社会における人間観」
7月26日	今野敏彦講演	現代社会における国際化の諸問題 ― 人権の視点から ―
	向台 博発表	現代社会における国際化の諸問題 ― 人権の視点から ―
	中島智子発表	現代社会における国際化の諸問題 ― 人権の視点から ―
	西岡正子発表	現代社会における国際化の諸問題 ― 人権の視点から ―
10月13日	場知賀礼文発表	近代性・現代的人生観と国際化の諸問題から見た「現代社会における人間観」
	山西辰雄発表	障害福祉と人権の諸問題から見た「現代社会における人間観」
10月15日	人権問題の実態と国際化に関する実態調査報告書として、『現代社会における人間観の探究 ― 国際化と人権の諸問題を通して ―』を発行した。この調査結果については、関連する研究機構を有する全国の大学、研究機関等からの高い評価を頂戴した。	
10月27日	藤本浄彦発表	仏教的人間観と国際化の諸問題から見た「現代社会における人間観」
	村上尚三郎発表	教育福祉と人権の諸問題から見た「現代社会における人間観」
	吉岡 剛発表	学校教育と国際化の諸問題から見た「現代社会における人間観」
11月17日	硯川眞旬発表	保健・医療福祉と人権の諸問題から見た「現代社会における人間観」
	西岡正子発表	女性教育と国際化の諸問題から見た「現代社会における人間観」
	藤井 透発表	女性労働と人権の諸問題から見た「現代社会における人間観」
12月1日	硯川眞旬発表	現代社会における「あるべき人間観」研究方法の確認

12月15日	田中圭治郎発表	教育問題から見た国際化の諸問題
	村上尚三郎発表	社会福祉問題から見た人権の諸問題
1月12日	坂本雅俊発表	「社会福祉問題から見た国際化と人権の諸問題」 (中間報告)
	村上尚三郎発表	「社会福祉から見た『あるべき人間観』」(中間報告)
1月26日	吉岡 剛発表	「教育問題から見た国際化と人権の諸問題」(中間報告)
	田中圭治郎発表	「教育から見た『あるべき人間観』」(中間報告)
2月16日	硯川眞旬発表	「現代社会における人間観の探究」のまとめ方
3月2日	田中圭治郎発表	「教育と現代社会における人間観」(まとめ)
	村上尚三郎発表	「教育福祉と現代社会における人間観」(まとめ)
3月16日	硯川眞旬発表	「現代社会における人間観と国際化・人権」(まとめ)

\* そのほか、聞き取り調査として、沖縄地区における基地周辺問題、刑務所、小学校、仏教福祉施設などの実地ヒヤリング調査（澤田、村上、坂本、硯川）、及び同地区の市町村教育委員会、小・中学校などにおける現場ヒヤリング調査（和田、田中、金田）、横浜・広島などにおけるオンブズ・パーソン制度のヒヤリング調査（澤田、村上、山西）、北海道における先住民族、教育福祉実践の現地調査（村上、飯田、坂本、硯川）、東京都ほかの教育実践（小学校）のヒヤリング調査（吉岡）、女性教育に関する調査（西岡、金田）などを実施した。これらの調査結果は、各研究員の研究報告に活かされている。

## 5. 研究成果の概要

「人間観」とは、すべての人間に共通な、人間たらしめている客観的事実としての人間のあり方、人間の姿のことである。すなわち、「経験的で個別的な人間知をささえているこの特定の共通な見方」のことである。

私どもは、人間の哲学的研究と科学的研究の両面から、同時に、文化人類学や教育人間学を含む総合科学的アプローチによる「現代社会における人間（観）」の探究につとめた。

すなわち、文化の諸機能に即して生物的人間、心理的人間、理性的人間、政治的人



間、経済的人間、文化的人間、宗教的人間および遊戯的人間などに分節して捉え、そのうえで総合的な理解をするようつとめた。そのため、次の3つの立場の研究スタッフを意図的に選考し、全体構成をはかった。

① 自然科学的研究方法で捉えられる生物的・自然科学的人間観

② 社会科学的方法で捉えられる社会的人間観

③ 理想や価値にかかわる精神（文化）科学や哲学で捉えられる価値追求的人間観

あわせて、全18名の研究スタッフは、メインテーマについての研究上の分担をおこない、それぞれの担当分野からメインテーマにつき分析をし、かつ、サブテーマ（国際化と人権の問題）の考察を通じて、「現代社会における人間観」へアプローチした。また、共同研究の便宜上、全スタッフを「教育」ブロックと「社会福祉」ブロックの2つの分野に分けて、共同研究の精密化をはかった。

なお、サブ・テーマである「人権」と「国際化」については、おおむね次のとおり理解することとした。

#### (1) 「人権」に関して

人権とは、法令で定められている権利のすべてを意味するのではなく、それらのうちの基本的なものとなりうる権利のことをいうのであり、おおよそ、それなくしては人たるに価しないという事から、人権もしくは基本的人権といわれるのである。

「人たるに価する権利」とは、人が人である限り平等に有しているところの権利のことであり、言い換えれば、人が生まれながらにしてもっているところの権利のことである。

ところで、この包括された概念である人権のなかみを歴史的な経緯から大別すると、次の3つに分けられる。その一つは、みだりに逮捕されたり、処罰されたりしない身体の自由に関わる権利であり、その二つは、思想、信条、言論、学問などの自由を含む精神の自由に関わる権利であり、いま一つは、人間らしく生存するに価する生活を営むことに関わる権利である。すなわち、前の二つは「個人的自由権」に関わる基本権であり、後の一つは「社会的生存権」に関わる基本権のことである。そして、それぞれの権利は互いに相関関係にある。人権の尊厳にも通ずるこの人間観は、さらにヒューマンな理性を基底とする、科学的・合理的精神をもつ存在としての人間観へと敷衍されるであろう。

以上を基本的視座として現代社会をみるとき、「あるべき人間観」が普遍化されない病巣にわたかまりのあることに着目する必要がある。例えば、現代社会における病

理の要因に「人間不信」が、その枢要なものの一つにあげられよう。この「人間不信」をもたらした背景には、価値観の多様化とその潜在性が指摘される。こうした価値観のありようは、人間関係における連帯を阻み、さらには歪みをも生み、世代の同異を問わず、時として「個の尊厳」をも蹂躪するほどの危険性を孕んでいる。あらためて人間のあり方を考え、その本質を捉えなければならない。

次に、視座を国際社会に向けると、K. マンハイムの思考誌（『人間と社会』）によれば、人類の幸福、世界の平和を希求する今日の状況は、まさに、彼のいう第三の段階たる「計画的思考の段階」に入ったとみてよい。それは「グローバルな思考」手だてに、政治体制の変革、民族の協調、開発後進地域の進展、環境の保全、異文化の交流等について、「黙視を許されない社会的緊張感」をもって「われわれは何をすべきか」とする課題意識を学びとることの必然を示唆してやまない。

以上のごとく、内外諸情勢の傍観が許されないとき、基本的な人間観の確立は広く国民的・国家的課題であるといえよう。この課題達成のための一つの方途は、教育の振興と社会福祉の拡充に俟つところが大である。民主主義を標榜し、はなばなしく発達した戦後の新しい教育と社会福祉は、半世紀を経る中で多様な変質を招来した。回顧するに、わが国の教育ははたして、わけ隔てなく個を尊重することに十全たり得たのか。いま、国連の動きとも呼応して、学ぶ者・生活する者の権利や発達保障のための、教育と社会福祉の真価が問われている。

## (2)「国際化」に関して

現在わが国は、国際化時代を迎えようとしている。多くの日本人が海外に渡航し、また、外国からも多くの人々が日本を訪れる。われわれは、自分たちの価値観で外国を見るだけでなく、外国の人々の価値観でわれわれ自身をみる必要にせまられるようになる。

日本人であるが、外国で教育を受けた帰国青年男女が通っている日本の学校において、当初日本の思考をしない子どもたちを排除する雰囲気が支配的であったし、さらに、外国人の子どもたちを受け入れた学校では、教師たちは異なる価値観で思考する児童・生徒に対してどのように対応してよいか悩むことが少くない。このような日本的価値観と異質な価値観を持つ人たちとの接触は、いろいろな文化摩擦を生じさせる。

従来、国際化とは外国の国々との交流を求めたものであった。それは多分にロマン的、憧れの的なものを意味していた。しかしながら、われわれの日常生活のなかでの国

際化が求められてくるに従って、われわれ自身の生き方そのものの再検討が求められてくる。すなわち、伝統的な日本の価値観が世界的視点から見直されてくる。それは日本の文化を客観視することであり、自分自身の価値観の検証、かつ自己変革でもある。このことをわれわれは「内なる国際化」と呼ぶ。すなわち、文化的、言語的、宗教的に、すべての人々が平等に仲よく、自分たちの権利を保障された生活ができ、また特に、子どもたちは機会均等な教育が受けられる社会の必要性である。つまり、社会的・経済的・文化的に抑圧された人々が、それぞれの国家、地域社会の中で偏見・差別のない生活が送れること、あるいはまた、国際化社会において、国家・地域社会・民族のちがいを超えて、一人の人間として、基本的人権を尊重しあいつつ生きていくことが今ほど求められる時代はない。

この2つのサブテーマを基本的視座として、メインテーマへ、アプローチした次第である。

なお、本研究班は大きく教育群と福祉群として分け、共同研究の精密化を図るとともに、その統合化と総合的考察に意を注いだ。

## 6. む す び

研究を重ねるごとに、共同研究テーマへの関心が一段と深まることを痛感した2ヶ年間であった。各スタッフは、この「研究班終結」に際してのさまざまな心情を共有し、各自の今後の研究の糧として大切にしようことを確認しあった。

今あらためて考えてみるに、私たち人間はいつも、この「人間とは何か、世界はどのようにしてできたか」を問うてきた。しかし、それは永遠の課題であり、本研究班でも「人間とはこういうものだ」「こうあるべきだ」と完全で満足な解答がえられないまま「未知なるもの」として、このテーマに対する探究を今後継続すべく、各スタッフ相互に確認しあったところである。

かえりみるに、この2ヶ年間で、与えられた課題へ一丸となって取り組んできた全スタッフの情熱あふれる心根・姿勢は生涯忘れられないであろう。こうしたお互いの絆と支え合いを誇りにおもう次第である。

なお、2ヶ年間にわたる共同研究の結果、現実社会において「あるべき人間観」達成にあたっては、特に次の点の認識が重要不可欠であることを確認しあうことができた。

- ① 福祉教育・人権教育は、人間としてのあり方教育、人間を大切にする人権尊重

の教育である。

すなわち、人間の価値を物質生産への寄与の程度によっておしはかるのではなく、真の人間の価値の理解を促進するとともに、共同生活の基本的行為の価値を理解し、さらには社会構成員としての自己の役割の認識を促す。そして、真実の人間の出会い、友だちとの人間的な触れ合い・つながり、友情交換の重要性の体験、民主的な人間関係づくり・暴力の否定の感覚化・実践化をはかることが大切である。

② 国際理解教育は、世界のすべての人々が、お互いに共通の人間性をもって生活している事実を認識し、相互理解を増進させ、人権・宗教・政治・風習・性別等にかかわらず、差別されたり、生活権が剝奪・抑圧・阻害されることがないように、あるいは、狭い愛国心・自民族中心の排外主義を克服し、世界平和をめざす。こうした教育の必要性は、国際的次元への無頓着が許されない今日、強調されて過ぎることはないと言えよう。